

令和8年度 全国学力・学習状況調査（6年生実施）の結果から

我孫子市立高野山小学校
学力向上委員会

【概要】

国語

- 全体正答率
 - ・全国平均をやや上回っている。
- 観点別正答率
 - ・「知識・技能」は、全国平均をやや上回っている。
 - ・「思考・判断・表現」は、全国平均をやや上回っている。
- 問題形式別正答率
 - ・「選択式」は、全国平均を上回っている。
 - ・「短答式」は、全国平均を下回っている。
 - ・「記述式」は、全国平均とほぼ同じである。

算数

- 全体正答率
 - ・全国平均とほぼ同じである。
- 観点別正答率
 - ・「知識・技能」で全国平均とほぼ同じである。
 - ・「思考・判断・表現」は全国平均を下回っている。
- 問題形式別正答率
 - ・「選択式」は、全国平均をやや下回っている。
 - ・「短答式」は、全国平均をとほぼ同じである。
 - ・「記述式」は、全国平均と下回っている。

児童質問調査

- 教科を中心とした学力・学習状況
 - ・「国語、算数に関する意識」、「国語、算数の学習活動」の各項目の得点は、県平均とほぼ同じである。
- その他の学力・学習状況
 - ・「総合・学級活動・道徳」「生活習慣」「学習習慣」「ICTを活用した学習状況」の各項目の得点は、県平均をやや上回っている。
 - ・「読書等」「主体的で対話的で深い学び」「自己有用感・心理的安全性等」「向社会性」「学びの自己調整」は、県平均とほぼ同じである。

【成果と課題への取り組み】 ○…成果 ▲…課題 □…取り組み

国語

- 考えとそれを支える理由や事例など、情報と情報との関係について理解することができる。
 - 話や文章の種類とその特徴について理解することができる。
 - 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。
 - ▲比喩や反復などの表現の工夫に気付くことが、あまりできていない。
 - ▲学年別漢字配当表で示されている漢字を文の中で正しく使うことが、あまりできていない。
 - ▲文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることが、あまりできていない。
 - これまで触れてきた比喩や反復などの表現の工夫への気付きをまとめて整理する。「工夫の効果」や「工夫の良さ」を自分で考え、言葉で書く。
 - 漢字を文や文章で書く際には、同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えて書く機会を増やす。また、画数の多い漢字の学習機会を増やす。
 - 例えば、「不思議」という語句と同じ構成の語句を集めて、語句の構成を理解するなど、漢字の構成や形から意味を考える活動等を通して、漢字の表意文字としての特徴や良さに気付く。
 - 文章を読んで理解したことと、既存の知識や経験と結びつけて考えることができるように、文章を読んで理解したことの中に、自分が既にもっている知識や経験と結び付くことはないか意識する。
 - 「書くこと」について、より具体的なものを書くようにし、交流等を通して、書くことが楽しいと感じられる活動を設定する。
- 例) △「読んだ後に感想を書きましょう」
- 「このお話の中で一番好きな場面を書きましょう」(理由も)
 - △「書いたものを発表しましょう」
 - 「みんなでノートを持ち寄って、同じ場面の人を見つけ、理由を伝え合おう」
- モジュールの時間などを使い、ドリルやデジタル教材で繰り返し練習したり、学習した漢字を使ってノートや新聞にまとめたりするなど、漢字などの言葉を使う習慣を各教科で取り入れ、環境を整える。

算数

- 体積の意味について理解している。
- 直方体の箱の形を構成する面について理解している。
- 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。
- 帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ることができる。
- ▲百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることが、あまりできていない。
- ▲単位量あたりの大きさを求める除法の意味を理解することが、あまりできていない。
- ▲基準量・比較量・割合の関係を正しく表した図を選ぶことが、あまりできていない。
- ▲異分母分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述することが、あまりできていない。
- ▲単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることが、あまりできていない。
- (比較量)÷(割合)=(基準量)などの言葉の式だけでなく、数直線などの図を用いて、基準量・比較量・割合を書き込み、数量の関係を捉える機会を増やす。
- 1つの数量だけでは比べることができないことから、どちらか一方の量をそろえる必要があることに気付く。また、数直線や図を用いて、単位量あたりの大きさを求める式の意味を理解する。

- 示された基準量に対して、さまざまな比較量がどれだけにあたるかを図を通して考える。また、基準量を変えて行う。
- いくつかの方法で分数の大小を比べることで、分数の表し方について理解する。(通分、小数・帯分数で表す、分子が等しいことに着目)
- 数直線上の目盛りの1つ分の大きさや単位分数の個数に着目して、数直線上の目盛りを分数で表すことで、分数の意味や表し方について理解する。
- デジタル教材(「ドリルパーク」「テストパーク」など)の活用を各学年で進め、基礎的基本的技能の定着に努める。
- 習得した知識を活用する時間を意図的に確保する。また、生活体験と結び付けた学習にしていく。
例) 数量が変わるとそれに関する数値にも変化がある。どのように変化するのか、具体物、図、言葉、計算、式などを用いて、関係性を考える。
- 算数科をはじめ、さまざまな教科等で、複数の資料を読み取ったり整理したりして自力解決する機会を多くもつ。資料の関連性や必要性に気づき、自ら考えるように支援していく。

児童質問調査(クロス調査)から

- 全体的に、数値は平均かやや高い傾向にある。質問は77問あり、学習面・生活面等など多岐に渡る。以下の質問と教科の正答数が関係する可能性がある。
 - ・今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。
 - ・5年生までに受けた授業では、算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えましたか。
 - ・5年生までに受けた授業では、図形や数直線など図が示された問題では、問題を解くときに図が役に立つと思いましたか。
 - ・5年生までに受けた授業では、算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか。
- 全校で学習習慣の定着を図る「高野山メソッド」を校内統一で行っている。また、職員で内容の見直しを行うことで、学校全体での意識にもつながり、児童と家庭への周知にもつながっている。学習習慣への意識が高まっていることから、今後も家庭と連携し、児童の学習習慣の定着に努めていきたい。
- 校内研修で国語科を中心に研修を行い、指導主事からの指導助言を基に職員全体で授業改善に取り組んできた。伝えたい思いを豊かに表現できる子の育成を目指し、相手や目的を意識して書く授業づくりを実践している。職員が「書く場」や「書く材料」「書き方」を準備することで、児童が意欲的に書くことにつながっていく。
- 校内での「読書タイム」や「ボランティアの方による読み聞かせ」「けやきんタイム(けやきんチャレンジ)」などのモジュール(短時間)学習の充実、5年前から行っている移動図書館「そよ風号」の取り組みなどが、国語への関心につながっている。